

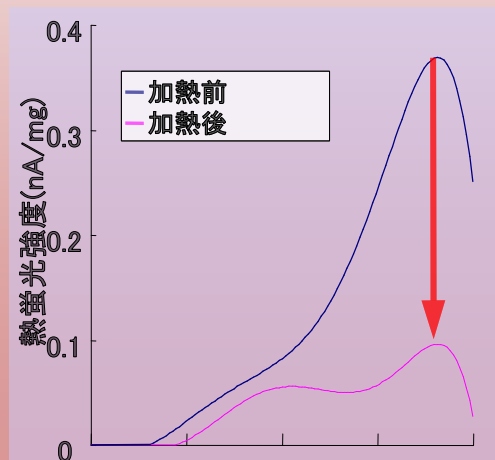
ガラス異物の混入は、ケガや事故につながる恐れがあり、非常に大きな問題です。これら異物が製品に混入していたかどうかを調べることは、製造ラインを見直す意味で大変重要な情報となります。

一般に加工食品は加熱工程を経ることが多く、加熱履歴の有無が製造工程由来かどうかの大きな判断材料となります。

しかしながら、これらの異物は、加熱されても外観にほとんど変化を生じないため、これまで工程で加熱されたかどうかの根拠を示すことができませんでした。

弊社では、ガラスが加熱された場合には、加熱によりガラス中のエネルギーの一部を熱蛍光として放出することに着目し、熱蛍光分析によりこれら異物が加熱されているかどうかを明らかにすることを可能としました。

(特許 第 3997186 号 ※ハウス食品グループ保有)



株式会社ハウス食品分析テクノサービス

〒284-0033 千葉県四街道市鷹の台 1-4

TEL : 043-237-5676 FAX : 043-237-2912

- ・ガラスが缶詰やレトルト食品など加熱殺菌されている食品などの加熱工程を経ている可能性があるかどうかわかります。
- ・加熱調理を行う食品で、発見されたこれら異物が加熱調理されているかどうかを調べることができます。
- ・同じ原理を利用して、石や陶磁器の混入時期も推定できる場合があります。

ガラスの種類や量により本検査が実施できないこともあります。まずはご相談下さい。

その他の情報は弊社ホームページアドレスでご確認下さい

<http://food-analab.jp/>

House Food Analytical Laboratory Technical Report 5

異物バンクは、ハウス食品分析テクノサービスの登録商標です。